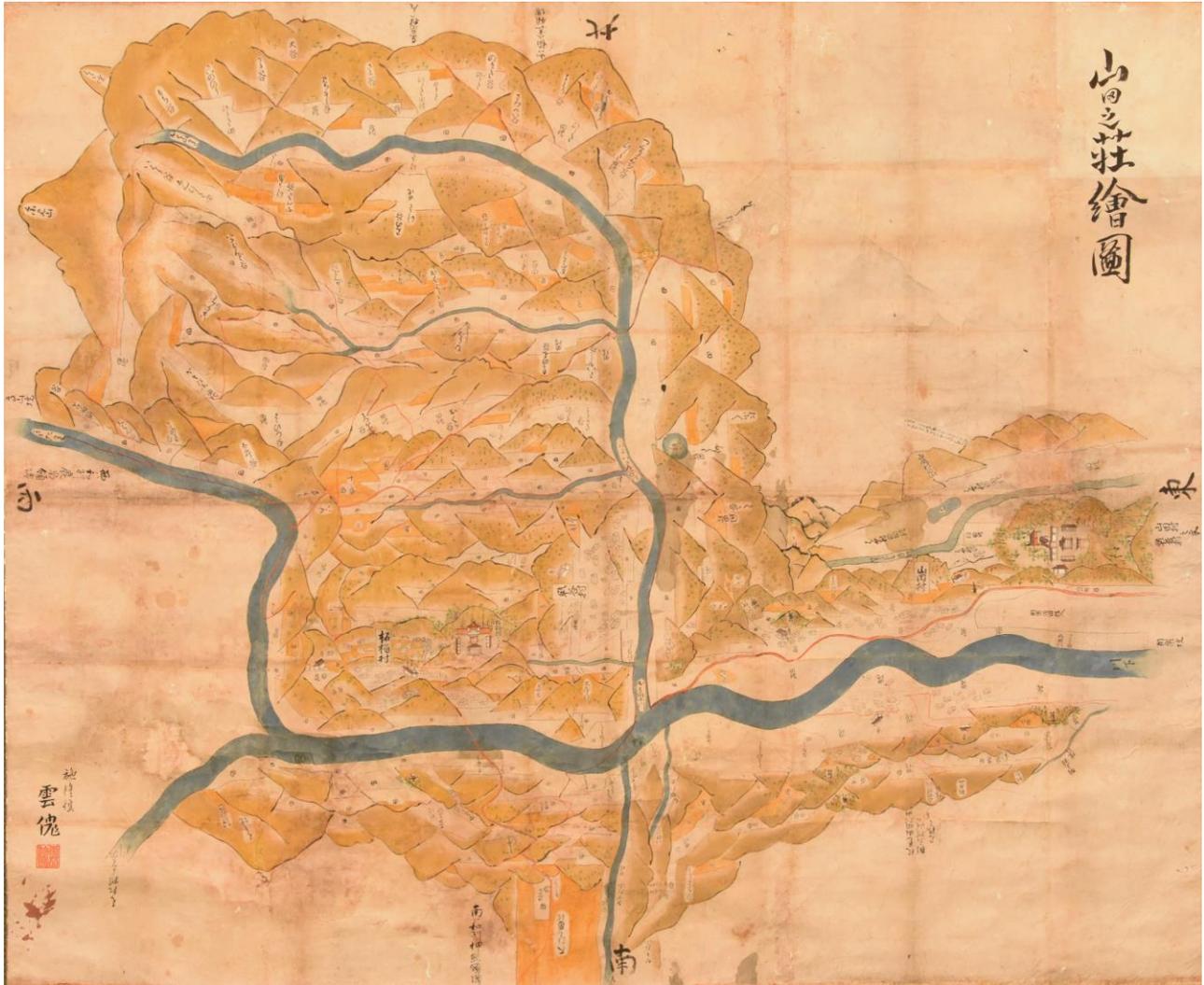


③ 近世の絵図



No. 8

やまだいぬいだにざくろさんかそんえず

山田乾谷柘榴三ヶ村絵図

江戸時代

精華町教育委員会蔵

江戸時代の山田・乾谷・柘榴の三か村（山田郷）を描いた絵図です。寺社・集落・街道・河川・山谷などが描かれていますが、特に乾谷村や柘榴村の山や谷の様子が詳細です。これは現在の光台地区にあたる範囲です。絵図の作成年代は不明ですが、江戸初期まで遡る可能性もあります。

なお、この絵図は、旧蔵者によって軸装に仕立てられました。絵図の表題（右上）と落款（左下）は、表装の際に追加された現代のものであり、江戸時代のものではありません。

山田乾谷柘榴三ヶ村絵図 現在の位置関係



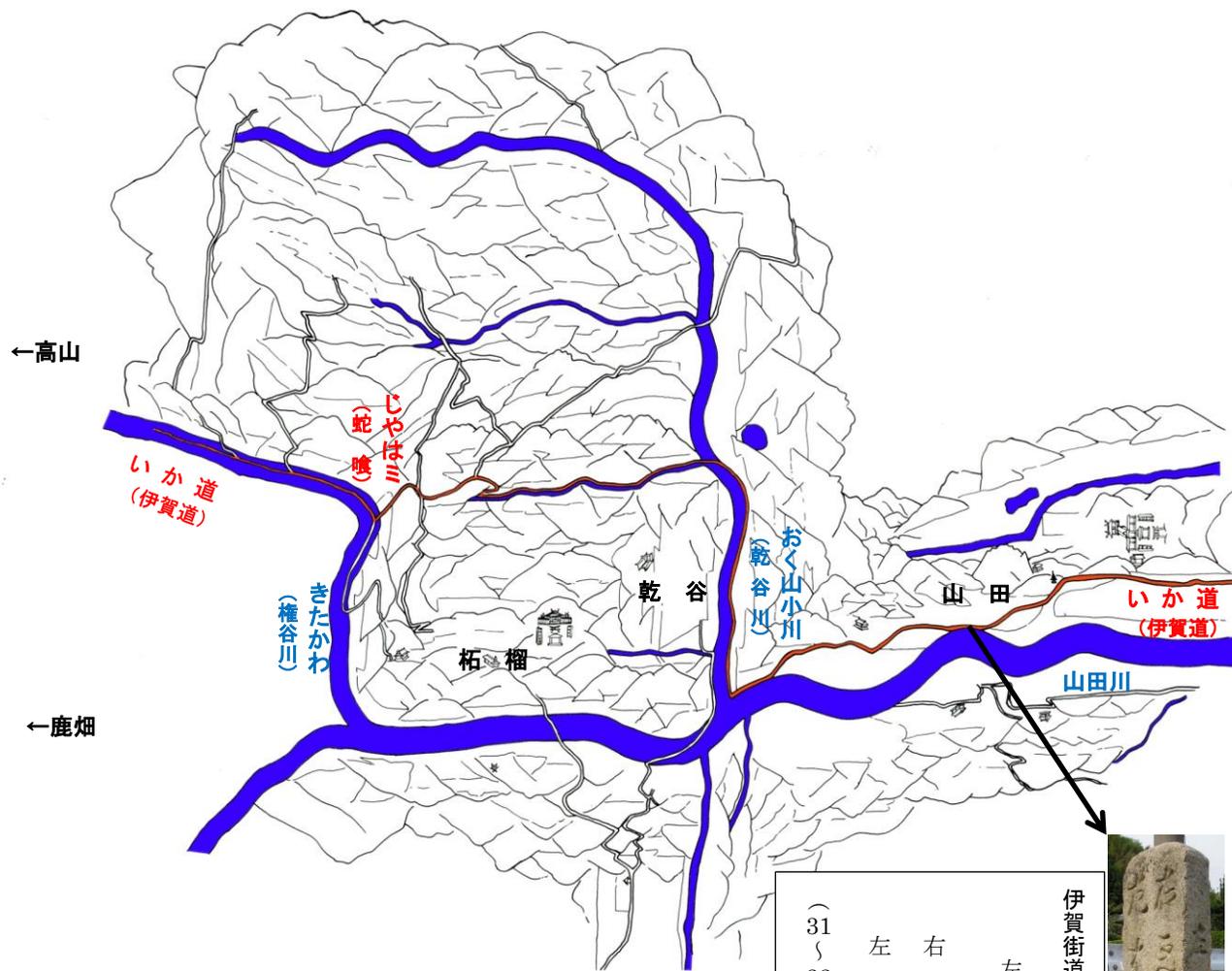
赤字は現在地の目安

伊賀街道

山田川沿いの東西の道は、大坂街道・清滝街道・伊賀街道などとよばれ、大坂（大阪市）と伊賀（三重県）を結ぶ重要な街道でした。現在の国道一六三号線の前身にあたりますが、精華町内の経路は時代によって変化がありました。

現在の国道一六三号線は、山田川に沿って精華町柘榴から奈良県生駒市鹿畑に至る経路ですが、近世の伊賀（清滝）街道は、柘榴から山田川支流の「北川」（権谷川）に沿って北上し生駒市高山方面に向かう「北川越」という経路でした。

山田乾谷柘榴三ヶ村絵図（No.8）では、「いか道」（伊賀道）の乾谷―柘榴間は集落北部の山間部を通る経路で描かれています（右図赤線部分）。「おく山小川」（乾谷川）沿いに北上した後、山間部の支流を西に進み、「じやはミ」（蛇喰）。現在の柘榴新配水池・光台五丁目公園付近）から「きたかわ」（権谷川）に降り、同川を北西に遡るといふ道筋です。



山田乾谷柘榴三ヶ村絵図にみる伊賀道（赤線部分）

伊賀街道沿いの道標（山田）

左 大坂
 右 きすいか
 （木津・伊賀）
 （吐師道）
 左 はせみち

（31～32頁の地図参照）

